

# 本格的な教養を身に付ける 大学などの履修証明プログラム

本格的な学び直しを考えるならば、「履修証明プログラム」がおすすめ。大学で学ぶような専門的な知識を、憧れの学校や母校で受講することができる機会です。

## 著名な大学で

### 履修書にも書ける学び直しを

定年後に「学校に通い直したい」と思った場合、シニア大学（いわゆる大学ではなく自治体や法人が運営する高齢者教室）や、大学のシニア向けオープンキャンパス（公開講座）もおすすめです。最も注目を集めているのが大学などの「履修証明プログラム」です。「履修証明プログラム」とは、社会人の多様なニーズに合わせて学校などを開放し、まとまった学習を提供するもので、一般的な他の

教室と違うところは、その学校で学問を修めたことを証明する「履修証明書」が発行されることです。

このプログラムは学校教育法に基づき文部科学省の認定も受けているので、例えば履修書の学歴欄に修了したことを書くことも可能です（※大学と違って学位の授与はありません）。これは、「新たな職種に転職したい」「NPO法人を設立したい」といった修了後の生き方を自分で設計していく上でも大きな強みになりますし、それに直結したたくさんの授業・コースが用意されているのもメリットで

## 立教セカンドステージ大学に聞くQ&A

### ・どういった受講生さんが通われていますか？

2022年の受講生（本科）の平均年齢は64歳。何かを模索していて、前に進みたいと考えるような方が多いです。

### ・入試に合格するコツはありますか？

総合的に判断しますが、向学心や協調性があること、何かを発見しようという気持ちがあることが大事です。一方で、学問を究めたい方には大学院をおすすめすることもあります。

### ・学び直しをすることはどういう意味がありますか？

多様で変化が大きいこれからの社会で、大きな満足感を持って生きるために学び直しが必要です。

### ・知識や教養を深める意味は？

学ぶこと自体が喜びに繋がります。さらに知見を相対化して見ることができるようになると、物事のいい面・悪い面を客観視することができます。友人・知人も増えますよ。



## 今回お邪魔した立教セカンドステージ大学のカリキュラム例

### ●必修科目

- ・オムニバス講義  
「学問の世界 A・B」
- ・ゼミナール・修了論文



### ●選択科目

- ・食と健康の教養学
- ・新聞書評を書く
- ・現代中国のメディア
- ・古典として読む旧約聖書
- ・社会老年学
- ・現代美術に親しむ
- ・金融論
- ・修了生が語るアクティブシニアの生き方など



### ●立教大学全学共通科目

立教大学学部学生のための全学共通科目から、一部の講義を受講することが可能。

（一定の条件があります）

※本科を修了するには1年間在籍して必修科目を2科目6単位、選択科目を6科目12単位以上修得することが必要。本科修了後に進学できる専攻科では、必修科目を2科目10単位、選択科目を2科目4単位以上修得すると修了。

す。また、それらの授業を専門の教員から、各学校の施設や教育資源を生かしながら体系的に受講することができると魅力です。

今回取材した【立教セカンドステージ大学】は、1年間の通学（+

希望すれば修了者はさらに1年間専攻科に進学可能）で、授業は春季と秋季、および夏季の集中講義が用意されています。立教大学と同じキャンパス内にあるので、受講生は大学の図書館や食堂、パソコン教室などの施設を利用することも可能。また、立教大学の学生と講義を一緒に受けたり、学生発表の授業を聞いて意見を出したり、さらに留学生のための日本語授業で話し相手になったりと、現役大学生との「異世代共学」もあります。

入学試験や定員、年間を通しての受講料・登録料などもあるため、入学へのハードルは少し高めに感じるかもしれませんが、大学生さながらのゼミナールや修了論文もあ

り、修了後も専攻科に進学したり、仲間と読書会や勉強会を続けたり、同窓会や研究会活動を行ったりと、緑豊かなキャンパスの中で、本格的な「第二の学生生活」を送れます。

必修の授業はゼミと論文のほか、さまざまな教員が専門の学問を語るオムニバス講義があり、いずれもセカンドライフを生き生きと過ごすためのヒントが多数盛り込まれています。ほかにも、上記のようなさまざまなジャンルの中から選べる選択科目や、立教大学の一部科目も受講できるため、幅広い教養が身に付くことは間違いありません。

「履修証明プログラム」は、現在全国で200以上あり、主要な大学のほか、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校などで実施しています。授業のジャンル、受講形態、期間、受講料など、さまざまなコースが用意されていますので、ぜひ自分に合ったプログラムを見つけてみてください。

履修証明プログラムで学ぶテーマは？



# 大学のキャンパスで学び 新たな刺激を得る

学び直すことで見えてきた  
新たな貢献意欲

金融関係の仕事をして68歳まで続けてきた中田さん。退職後は「学び直し」の必要性を感じ、選んだのは立教大学が運営する履修証明プログラム「立教セカンドステージ大学」。いざ通い始めてみると、驚きも多かったとか。

「長年の社会人生活で固まった考えを、新たな刺激を得て柔らかくしたいと思ったんです。卒業後は、前職を踏まえ『金融リテラシーの向上に尽くしたい』と当初考えていたのですが、共に学んでいる人を見ると、子供の食や貧困、介護の問題など、もっと身近で切実な課題に対する貢献意欲がすごく高い。そういう視点のなさを痛感して、

学び直しの場を選んだのは？

## 立教セカンドステージ大学



2008年に創設された、50歳以上を対象にした学びの場。立教大学の池袋キャンパス内にある。課題エッセイを含む書類選考と面接による入試があり、毎年約100人が入学する。

公式HP <https://rssc.rikkyo.ac.jp/>

## 第二の人生をデザイン するための力を鍛える

2008年、団塊の世代の方々が一斉にリタイアされる時期を迎え、そういった方たちに「自由な市民」として、これからの第二の人生をデザインするための力を鍛えてもらう場所として、本学は創立されました。単なる生涯学習や講座プログラムと違い、「学び直し」「再チャレンジ」「異世代共学」を目的としており、幅広い教養やさまざまな経験を持つ人と出会うことで、考え方を再発見したり、社会の新しい側面に気づいたりすることができます。そうすることで、きっと自分の人生がさらに広がっていくはず。そんな第二の人生の活動へのサポートを我々がしています。ぜひ多くのみなさまの入学をお待ちしております。



立教セカンドステージ  
大学副学長  
浜崎桂子 教授



立教セカンドステージ  
大学教務委員長  
栗田和明 名誉教授



立教セカンドステージ  
大学学長補佐  
河村賢治 教授

自分も何か身近な社会貢献活動が  
できないかと思いついています」

——この学校のようにするのは？

「現役大学生と違って、すでにいろんな経験を経た方々が集まっているので、視野の広がり方が段違いです。先生方とは年齢も近く、和気あいあいと勉強できますし、アカデミックなものの方を学べるのもいいですね。また、現役学生と一緒に受ける講義もあり、評価や課題の提出も同じなので、自分が大学生だった頃よりもよっぽど勉強しています。会社や家以外で、新たな刺激をもらう場所があるというのとはとても大事なことです。それと、今はZoomなどを使うことも多いので、若干のPCスキルも重要ですね」

大学生だった頃よりも  
よっぽど勉強しています



中田克己さん

69歳。銀行、証券、クレジットカードなどの金融機関に勤め、68歳で退職。今後の人生のため、立教セカンドステージ大学に入学。



立教大学池袋キャンパスの中で、現役の学生と同じ環境で学ぶ。設備の充実した図書館が利用でき、またセカンドステージ大学の受講生専用ラウンジも用意されている。